

平成21年7月
編集・発行 農林水産省生産局技術普及課

このメールマガジンは、普及事業に関する情報などを、登録された皆様に無料でお届けするものです。もし、まわりに登録されていない方がいましたら、ぜひ登録をお勧めください。
登録先は、<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>をご覧ください。

【 本 号 の 内 容 】

日照不足、低温及び大雨に対する農作物の技術指導の徹底に関し、都道府県に対し通知を行いました

技術普及課からのお知らせ

食料・農業・農村政策審議会企画部会(第10回)において普及事業について議論されました
普及事業に関する農業者モニター調査結果が公表されました
「農業技術の匠」の募集について
第2回「地産地消の仕事人」の募集について
普及指導員等研修の受講者募集のお知らせ

生産局関係課からのお知らせ

肥料高騰に対応した施肥改善等に関する検討会「中間取りまとめ報告書」について【農業生産支援課、農業環境対策課】
加工・業務用野菜の生産に取り組んでみませんか【生産流通振興課】
飼料用米への農薬使用について【畜産部畜産振興課】

その他のお知らせ

東北地域マッチングフォーラム(山形)の開催について【農林水産技術会議事務局研究推進課】
国の施策に関するご意見等の募集について

編集後記

=====
日照不足、低温及び大雨に対する農作物の技術指導の徹底に関し、
都道府県に対し通知を行いました
=====

日照不足が7月に入り全国的な現象となっていることに加え、気象庁の1ヶ月予報によると、北日本を中心に今後低温となる可能性が示されるなど、農作物への影響が懸念される状況となっています。

また、西日本等では大雨による冠水などにより農作物等に被害が生じています。

このため、地方農政局等を通じて、各都道府県(沖縄県を除く)に対し、被害を最小限に抑え、生育の回復等を図るための適切な対応について、指導の徹底を図るための通知を发出了しました。

被害が発生している地域や今後低温が続くことなどにより被害が生じる可能性の高い地域において、普及指導員など農業現場で実際に指導されている方々におかれては、地域の気象状況や季節予報などを参考にしつつ、地域の農作物の生育の実状を踏まえ、適切な指導を進めるようよろしくお願いいたします。

プレスリリースはこちら

<http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/sien/090728.html>

気象庁の季節予報など最新の情報はこちら

- ・季節予報 <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>
- ・異常天候早期警戒情報 <http://www.jma.go.jp/jp/soukei/>

担当課：生産局農業生産支援課、生産流通振興課、畜産部畜産振興課、消費・安全局植物防疫課

=====

技術普及課からのお知らせ

=====

食料・農業・農村政策審議会企画部会（第10回）において普及事業について議論されました

6月1日に開催された標記会議の配付資料と議事録が公表されました。普及事業をめぐる課題と展開方向の概略を事務局から説明し、2名の委員から、コーディネート機能等を担う普及指導員の重要性について発言がありました。

配付資料及び議事録はこちら

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/kikaku/bukai/index.html>
(議事録のP15、28、配布資料1-1のP21に普及事業に関する記述があります)

普及事業に関する農業者モニター調査結果が公表されました

普及事業に関する農業者ニーズを把握するため、農林水産省において、農業者モニターに対するアンケート調査を実施し、その結果が公表されました。

なお、本調査結果については、運営指針の改定に係る検討の参考とする予定です。

これまでに支援を受けた分野と今後の支援を期待する分野を比較すると、特にマーケティングについて、その差が大きく、支援への期待が高まっていることが見受けられます。

調査結果の詳細はこちら。

<http://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/joho/090703.html>

「農業技術の匠」の募集について

7月1日（水）より「農業技術の匠」の募集を開始しています。

選定結果の公表は本年秋ごろを予定しており、選定された農業者には、農林水産大臣の「農業技術の匠」選定証を交付し、ホームページ等で「農業技術の匠」の取組を紹介します。

また、選定後は、技術研修会等で活躍していただくなど、技術の継承・普及活動を支援していただきたいと考えております。

「農業技術の匠」の応募には、都道府県（普及指導センター等）から推薦していただく必要がありますので、普及指導員の皆様の担当地域でも、「この人は！」という農家の方がおられましたら積極的に推薦していただくようよろしくお願いいたします。

なお、募集期間は8月31日（月）までとなっていますので、選定要件など疑問な点がございましたら、本省技術普及課又は各地方農政局経営支援課等までお気軽にお問い合わせください。

昨年度の選定結果（「農業技術の匠」技術概要が御覧になれます）

http://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_takumi/index.html

詳細についてはこちら

<http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/gizyutu/090630.html>

第2回「地産地消の仕事人」の募集について

地産地消の取組は、生産現場の意識を変え、生産と消費や販売をつなぎ、地域が一体となった取組をするなど「人」が果たす役割が重要であることから、地産地消の取組に関する知見や経験を有し、全国各地域で優れた地産地消活動の実現に活躍されている方々を、「地産地消の仕事人」として選定・公表します。

都道府県から、優れた地産地消の取組を実現する上で重要な助言や指導、コーディネートを行った普及指導員を「地産地消の仕事人」として推薦することができます。

積極的にご応募ください。

詳細については、以下のホームページをご覧ください。

http://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutu/tisan_tisyo/sigoto_nin.html

普及指導員等研修の受講者募集のお知らせ

平成21年度普及指導員等研修につきまして、既に地方農政局等を通じて受講募集を行いました。下記の研修については、まだ定員に若干の余裕があります。

申し込みは随時受け付けておりますので、受講ご希望の方は、各都道府県の研修担当者を通じて、本省技術普及課までお申し込みください。

なお、研修準備の関係がありますので、実施期間の2週間前を目処にお申し込みいただきますようお願いいたします。

品目別高度先進技術研修

(1) 大豆の高品質、安定生産増収技術

期 間：8月25日(火)～27日(木)

実施機関：(独)農業・食品産業技術総合研究機構

中央農業総合研究センター(茨城県つくば市)

主な内容： 湿害回避技術(講義)

FOEAS導入による安定生産技術(講義・現地研修)

大豆畝立同時播種技術(講義)

大豆の病害虫対策(講義)

(2) DNA品種判別技術

期 間：10月19日(月)～20日(火)

実施機関：(独)農業・食品産業技術総合研究機構

果樹研究所(茨城県つくば市)

主な内容： 主要果樹のDNA品種判別技術(講義・実習)

DNA品種判別とDNAマーカー計算ソフトウェア

(講義・実習)

【担当】

技術普及課研修指導班 宮脇

TEL:03-3593-6497

生産局関係課からのお知らせ

肥料高騰に対応した施肥改善等に関する検討会「中間取りまとめ報告書」について【農業生産支援課、農業環境対策課】

農林水産省では、この3月より、「肥料高騰に対応した施肥改善等に関する検討会」を開催し、施肥改善をめぐる現状と課題、今後の対応方向等について検討を行ってきたところですが、7月14日に「中間取りまとめ報告書」を公表しましたのでお知らせします。

本報告書では、21肥料年度の肥料価格は前肥料年度より低下したものの、

高騰前に比べると依然として高値傾向にある一方、農地土壌では有効態リン酸や交換性加里が過剰蓄積している傾向が続いていること、たい肥などの有機資源が必ずしも肥効を勘案した施肥がされていない実態にあることなどから、中長期的な視点から、省資源型の農業生産体系への転換を図ることが重要であるとしています。

さらに、今後の対応方向として、
(1) 土壌診断に基づく施肥設計の見直しや減肥基準策定の推進
(2) 地域有機資源の活用や施肥低減技術の導入等の推進
(3) 適正施肥や施肥低減技術の導入に必要な指導體制の構築
が必要であるとしています。

普及指導員の皆様におかれましては、本報告書も参考にさせていただきながら、土壌診断に基づく施肥指導や、地域の実態に合った施肥低減技術の普及等を通じて、生産現場における施肥改善の取組を一層推進していただくようお願いいたします。

中間とりまとめ報告書はこちら

<http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/sien/090714.html>

検討会の過去の資料等はこちら

http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/kenyu_koutou/n_kento/index.html

加工・業務用野菜の生産に取り組んでみませんか【生産流通振興課】

農林水産省では、20年度に、各地の普及指導センターの協力の下、加工・業務用野菜の生産に必要な、低コスト・省力化技術の実証を行いました。
今回、その成果をHPに掲載しましたので、普及指導員の皆様の担当地域におかれましても、実証された技術を活用して、加工・業務用野菜の生産のご指導を引き続きお願いします。

ホームページはこちら

http://www.maff.go.jp/j/seisan/engei/ryutu_kako/r_riyou_kakudai/torikumi/zisyou.html

また、平成21年度も実証事業を行うこととしています。
後日、加工・業務用野菜の生産に関する低コスト・省力化にチャレンジしたい産地の方々を対象に公募を行いますので、積極的なご協力をお願いします。

【問い合わせ窓口】

生産局生産流通振興課 流通加工対策室

TEL:03-3502-5958

飼料用米への農薬使用について【畜産部畜産振興課】

飼料用米については、食料自給力・自給率向上のための戦略作物として位置づけ、生産拡大を推進しているところです。このような中、その効率的な利用のため、鶏を中心に粳米のまま給与する方法が期待されています。

しかし、粳米における農薬の残留については知見がないことから、食の安全・安心に万全を期すため、以下の措置を講じられるようお願いしています(注1)。

- (1) 飼料用米について、出穂期以降に農薬の散布を行う場合には、家畜へは粳摺りをして玄米で給与すること。
- (2) 粳米のまま、もしくは粳殻を含めて家畜に給与する場合は、出穂期以降の農薬の散布は控えること。

今後、出穂期を迎えますので、農家への再度の周知のほどよろしく申し上げます。

なお、当該事項については、「多収米栽培マニュアル(注2)」にも対策を記載していますので、ご活用下さい。

注1：平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号、消費・安全局農産安全管理課長、畜水産安全管理課長、生産局農業生産

支援課長、畜産部畜産振興課長連名通知
(都道府県の畜産担当部局に通知済み)

注2: 「多収米栽培マニュアル」はこちら

http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/tasyumai/t_manual/

=====
その他のお知らせ
=====

東北地域マッチングフォーラム(山形)の開催について
【農林水産技術会議事務局研究推進課】

現場ニーズを踏まえた農業研究の推進と研究成果の周知、普及促進のため、生産者、普及指導員、研究者等が双方向の意見・情報交換を行う地域マッチングフォーラムを開催します。

テーマ: 「新品種が切り拓く明日の東北農業」

日時: 平成21年8月3日(月) 13:15~17:00

場所: 山形ビッグウイング(山形国際交流プラザ)

参加費: 無料

詳しくはこちら(農研機構東北農業研究センターのホームページ)

<http://tohoku.naro.affrc.go.jp/event/2009/0803.html>

国の施策に関するご意見等の募集について

生産局では、21年度補正予算等による国の施策について、生産現場からの生の声を聞き、今後の見直し等に反映させていきたいと考えています。

普及指導員の皆様自身のご意見・要望等のほか、普及活動の際に耳にした農業者からのご意見等がございましたら、下記の窓口にお寄せいただくようお願いいたします。

国の施策に関するご意見・ご要望はこちらまで

<https://www.contact.maff.go.jp/maff/form/2fba.html>

お問い合わせ先

農林水産省生産局技術普及課

TEL: 03-3501-3769(ダイヤルイン)

編集後記

3ヶ月間お休みしていた編集後記が、今月号より、満を持して復活することになりました。

この間、「編集担当Nの身に何かあったのではないかと」といったご心配の声が多く寄せられ・・・することは、残念ながら全くありませんでした。

幸いか不幸か、編集担当Nは極めて健康体を維持していますので、引き続き、「e 普及だより」共々お付き合い願います。

記事の中でもお知らせしたとおり、全国的に不安定な天気が続いているようです。普及指導員の皆様におかれましても、気象条件に応じた農作物のきめ細かな栽培管理指導などにより、産地をサポートしていただきたいと思っております。

編集担当N

メルマガの配信登録はこちら

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>

バックナンバーはこちら

http://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_mailmag/index.html

PDF形式のファイルの閲覧について

メールマガジンに記載したURLで、一部PDF形式のものがありません。

PDFファイルをご覧頂くためには、農林水産省ホームページ
(<http://www.maff.go.jp/j/use/link.html>)の「3 PDFファイルについて」
にある「Get Adobe Reader」のボタンでAdobe Readerをダウンロードしてくだ
さい。